

辺野古通信

第20号 2010年6月10日



大雨洪水警報の中、17000人で5.16普天間包囲行動(国道58号)

発行: 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座

沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

菅新政権は「新日米合意」を撤回せよ!

■沖縄の人々は、4.25 沖縄県民大会に続き 5.16 普天間基地包囲行動を成功させ、「普天間基地即時閉鎖! 県内移設No!」の固い決意を日米両政府に突きつけた。その1週間後の23日、2度目の訪沖で鳩山首相は辺野古移設を通告し、28日には日米共同声明を発表した。「5.28」は新たな「屈辱の日」として沖縄の人々の記憶に深く刻まれた。当日、私たち沖縄講座も総理官邸前に駆けつけた約140人の抗議の渦の中にいた。しかし「失望はするが絶望している余裕はない」(6.3 東京中野集会での高里鈴代さんの発言)。沖縄に再び三度「屈辱」を強制した、その根源にある日米安保体制を揺るがす闘いをどう創るのか、ヤマトの反戦反基地運動に問われ続ける。■6月2日、鳩山政権は突如崩壊し、8日に管内閣が発足した。政権崩壊の最大の理由が「普天間」だとすれば、新政権は当然「新日米合意」を白紙に戻し、再度対米交渉にチャレンジしなければならない。しかし岡田外相や北澤防衛相、前原国交相を再任するようでは、再交渉の意欲はないと思われるも仕方あるまい。菅新首相は「基本的に日米合意を踏まえる」と宣言した。■私たち

は、5月14日から17日まで、約20人で第14回沖縄ピースフルツアーを実施した(ツアーの報告は次頁以降を参照)。■ツアーの感想として、二つのことを書き留めておきたい。一つは沖縄の闘いがこれまでの島ぐるみ闘争と異なる質を獲得しつつあるのではないかと、ということ(3頁の仲里効さんの講演要旨参照)。キーワードは「自己決定権」。6.3 東京中野集会でも「日本政府はあてにならない。沖縄は直接対米交渉するしかない」という発言が、沖縄側から続出した。「頼りにならない」というより、65年変わらぬ沖縄の軍事植民地状況が日米政府の合作に他ならないという認識が、その底にある。もう一つは米軍ヘリパッド建設と闘う東村・高江現地で危機感が高まっていること。辺野古と違ってマスコミはほとんど取り上げない。次号では現地の動向をもっと取り上げたい。■菅新政権は「新日米合意」を白紙撤回し、沖縄の声を踏まえた対米交渉を! 日米両政府は、辺野古・高江新基地建設断念を! 普天間基地即時閉鎖を! ■辺野古・高江カンパは累計1,104,762円(6月6日現在)。カンパを! 郵振00210-0-2021 沖縄連続講座

東村・高江の米軍ヘリパッド工事強行を許すな

東村・高江の米軍ヘリパッド建設工事が、7月から強行されようとしています。防衛省は、自公政権下とまったく同じやり口で、住民の反対の声を踏みにじろうとしています。以下は沖縄講座からのカンパへの礼状です。

「県外で高江のことはまったく報道されていませんが、政府は7月からヘリパッドの工事を強行しようとしています。私たち住民は、日々の生活と座り込みで手一杯の状態です。どうか皆様のお力により、高江のことも広めてくださいますようお願い申し上げます。基地のない沖縄をめざしともに頑張りましょう。「ヘリパッドいらない」住民の会一同 事務局 比嘉 真人」

沖縄は、〈自己決定権〉の樹立に向けて動き始めた・・・

5月14日(金)

那覇空港から、普天間移設先として浮上した与勝半島に向かう。あいにくの雨模様。海中道路の駐車場から沖合を遠望。雨に煙ってよく見えない。駐車場の売店で地元のもずくやイカの天ぷらに舌鼓。与勝沖で沖縄のもずくの大部分が生産されている。石油備蓄基地CTSのある平安座島まで車を走らせる。CTSは70年代に建設計画が浮上し「金武湾の自然を守れ」という激しい反対運動が取り組まれた。石垣島の白保、辺野古と続く沖縄住民闘争の草分けだ。今回の与勝沖案反対運動も、反CTS闘争の経験者が重要な役割を担ったと聞いた。CTS基地ゲートに向かう海岸線の道路から、与勝沖案で基地建設予定地とされた豊かな海が正面に見えた。辺野古と同様、この豊かな海に人殺しのための基地を造るなど、「自然に対する冒涇」だ。与勝沖案が再浮上しないことを願う。

18時過ぎからは浦添社会福祉センターで開催された「韓国併合100年・安保改定50年・復帰38年を問う沖縄集会」に参加。約300

人で会場は満席。基調講演は、仲里効さん。仲里さんは「沖縄の民衆意識の現在は〈自己決定権〉の言葉で象徴できる」と指摘し、「二重権力状況を創出し、琉球弧の自己決定権の樹立に向かおう!」と問題提起した。(別掲講演要旨参照。仲里さんも触れていたことだが、この日の琉球新報の文化欄にも沖縄タイムスの文化欄にも「自己決定権」の見出しのついた記事が掲載されていた。)基調講演を受けて、韓国、グアム、フィリピンからのゲスト、アイヌ民族からは3人が発言。辺野古・高江・泡瀬から闘争報告とアピールがあった。



琉球弧の自己決定権の樹立へ～既視と未視の間の琉球政府

仲里効さんの5.14集会基調講演要旨

「韓国併合100年・安保改定50年・復帰38年」が本集会のタイトルだが、実は2010年はもうひとつ沖縄にとって重要な意味がある。1970年12月20日のコザ暴動から40年になる。それまで忍耐強く、なかなか意思表示もしないと一般的に言われていた沖縄の民衆が決起したという意味で、このコザ暴動は沖縄の戦後史にとって重要な出来事。コザ暴動が発生したとき、米軍が最高度の警戒度を示すコンデショングリーンを沖縄社会に対して発動した。それだけペンタゴンも日本政府も震え上がった。同じ最高度の警戒警報が発動されたのは、2001年9月11日の後だけ。もうひとつ東アジアにとって忘れてはならないことは、朝鮮戦争が勃発して60年になること。その大きな意味のある結節の年に、普天間を巡って沖縄の民衆が動いた。節目の年の、句読点を区切る大きな動きであり、東アジア、日本にとっても、時代を画する年と言える。

沖縄の自己決定権を樹立していく方向に沖縄民衆の意識が動き始めたのではないか。

沖縄の歴史認識や民衆意識の中では、日本の国家・国民概念に包摂されない、ベクトルが異なる意識空間、半独立・準独立的な意識がある。いまの政治状況の中に、日本という制度空間の権力システムの中に、二重権力状態を創り上げていくことが、重要だ。そのことによって基地の問題にしても、日本の防衛問題も相対化しながら、無化していく。沖縄の自己決定権の樹立と同時に、沖縄に日本国家に対する二重権力状態を創っていく。アメリカの占領権力、日本の国家権力に対して、二重権力状態を無の状態から創り上げていった琉球政府の記憶、経験を我々は持っている。その経験や記憶を現在の文脈で再構成しながら、新たな自己決定権の樹立に向かうべきだ。伊仙町の大久保町長が普天間問題を巡って「沖縄県民と私たちは歴史的にも文化的にも民俗学的にも同胞で、気持ちは痛いほどよくわかる」と発言した。普天間基地を巡る問題に対して、単に抑止力だとか防衛の問題という文脈では括れない、沖縄の民衆意識の潜在性、身体性まで視線を降ろしていかなければ何も見えてこないだろうということを、町長の発言は物語る。

琉球弧の自己決定権の樹立へ向けて、二重権力状態を、柔らかな政治体を創り出していく。これは、沖縄の民衆が自らの実践を政治体に結集させていくことであり、イタリアの思想家アントニオ・ネグリの言う世界史的な「構成的権力」と結合することだ。改めて復帰38年の年に、このことを確認したい。(編集部の責任で当日の講演要旨をまとめたものです)

大雨・洪水警報の中、17000人が普天間基地を包囲した！

5月15日（土）

きょうも雨模様。東村・高江に向かう。2月に防衛省が米軍ヘリパッド建設現場の監視テントの一部を撤去し、フェンス設置工事を強行した。6月までは「やんばるの生態系に影響を与える」とかで工事は中断。しかし7月の工事なら「生態系に影響しない」というのか。N4ゲートの監視テントに立ち寄り、「住民の会」の方から現状の説明をしていただいた。7月には本格的な工事が強行される可能性が高い、と言う。カンパを届け、辺野古へ向かう。座込みテントでは多数の来訪者がいたため、カンパを届け、キャンプ・シュワブを浜から監視。基地内で兵舎などの新設工事が着々と進められている。鳩山政権が迷走している間も、既成事実が積み上げられていく。後日、高江と辺野古から、いつもの丁寧な礼状が届いた。（高江の礼状は1面で紹介）

県民大会の会場になる宜野湾海浜公園に着くころには、横殴りの激しい雨。ずぶぬれになり

ながら、平和行進の部隊が続々と結集し、3800人に膨れ上がる。伊波宜野湾市長、グアムや韓国、フィリピンからのゲストからも発言。翌日の普天間包囲行動の成功を誓い合った。

5月16日（日）

連日の雨模様。早めに集合場所の宜野湾市海浜公園へ。沖縄講座で買い揃えたイエローのTシャツをカッパの上から着て、屋外劇場の舞台裏で待機。雨は激しくなるばかり。13時前に出発し、デモ行進で「人間の鎖」配置場所の国道58号に向かう。カッパの隙間から雨水が流れ込み、ズボンもシャツも靴もぐっしょりと冷たい。折りたたみ傘は強風に煽られて壊れ使い物にならない。歩道を雨水が川のように流れ、窪みに水溜りを作る。「米軍普天間飛行場の無条件閉鎖返還を求める普天間基地をかえせ！ 人間の輪で普天間基地を包囲する県民大行動」は、沖縄の梅雨時でもめったにない記録的な豪雨、大雨・洪水警報が発令される中、17000人が結集



普天間飛行場の県内移設に反対する (宜野湾市・名護市共同声明)

宜野湾市の中心部に位置する普天間飛行場は96年4月12日に日米両政府が「今後5年ないし7年以内に全面返還する」としたSACO全面返還合意から15年目をむかえた。/ SACOにおける普天間飛行場の全面返還合意の原点は、宜野湾市民が晒されている激しい爆音被害といつ墜落するかわからない危険性が同居した生活環境からの解放であり、沖縄県民の基地負担の軽減を図ることであった。/ しかし、SACO最終報告で沖縄本島東海岸沖に1500mの撤去可能な代替施設を建設するという普天間飛行場の県内移設条件が付き沖縄県民を大きく失望させた。/ 一方、移設先とされた名護市では97年12月に市民投票で移設反対の民意が示されたにも拘らず、名護市民の意向を無視した前自公政権下でアメとムチの政策で地域社会は二分され、歪な社会状況を生み出した。/ (中略) / ジュゴンの棲む美ら海を破壊し、住民に被害を与え続ける普天間飛行場の代替施設の県内移設を断念すべきである。/ 危険な普天間飛行場は一日も早く閉鎖・返還されるべきである。日米両政府が安全保障や抑止力を理由に普天間飛行場の代替施設の県内移設を行わず、県民の基地負担の軽減を行い、住民の安全・安心の保障を最優先に確立するべきである。/ 私たちは、今後とも普天間飛行場の危険性除去と早期閉鎖・返還をめざすと共に、鳩山政権が画策する名護市辺野古を含め県内移設に反対する決意を確認し、県内移設によらず、米国が進める沖縄からグアムやテニアンへの海兵隊移転計画を政府として検証し対米交渉に強く臨むべきである。

宜野湾市・名護市は、本日の「5.16 人間の輪で普天間基地を包囲する県民大行動」を機にお互いに手を結び、普天間飛行場の県内移設に反対する宜野湾市・名護市の共同声明とする。

2010年5月16日

宜野湾市長 伊波 洋 — 名護市長 稲 嶺 進

し、「世界一危険な」普天間基地の周囲約 13 キロを「人間の鎖」で包囲し、即時閉鎖・返還を訴えた。私たちはヤマト（本土）からの参加者の中に入り、午後 2 時、2 時半、3 時と 3 回の「人間の鎖」を繋いだ。想像を絶する悪天候を考えれば、17000 人の参加者数は、迷走する鳩山政権に対する抗議と怒りの強さを十二分に示す。行動終了後、第 3 ゲート前では市民団体の呼びかけで抗議集会。私たちも普天間基地に向かって怒りのシュプレヒコールを浴びせた。

5月28日、「日米共同声明」に抗議して総理官邸前には百四十名が結集。沖縄講座も下記の抗議要請書を提出した。



日米安全保障協議委員会による日米共同声明に抗議し、 普天間基地の即時閉鎖と辺野古新基地建設断念を求める要請書

本日、岡田外務大臣、北沢防衛大臣と、米国クリントン国務長官、ゲーツ国防長官は、日米安全保障協議委員会(SCC)メンバーとして、普天間基地の移設先として辺野古崎地区に1800mの滑走路を持つ新基地建設を明記した、共同声明を発表した。

声明では、「沖縄の人々が、米軍のプレゼンスに関連して過重な負担を負っており、その懸念にこたえることの重要性を認識」し、「沖縄の自治体との意思疎通を強化する意図を確認した」などと述べているが、沖縄の意思は、9万3千人が参加した4月25日の県民大会、豪雨の中で、1万7千人が普天間基地を包囲した5月16日の人間の鎖行動、そして、1995年の米兵による少女集団レイプ事件以来示された数々の行動や市民投票、選挙結果等により、すでに何度も明らかになっている。

また、訓練移転先として明示された徳之島でも、住民の反対の意思は明確だ。

「最低でも県外」「辺野古の海が埋め立てられることは自然に対する冒瀆」との発言を反故にしようとする貴殿の態度は、「学ぶにつけ、沖縄に存在する米軍全体の中で海兵隊は抑止力を維持できるという思いに至った」などという発言によっても、とうてい市民を納得させるものではない。それどころか、その豹変と不真面目な発言にあきれ、怒りが増すばかりだ。

そもそも、前線展開を目的とした侵略部隊である海兵隊が「抑止力」だなどということは、米国を含め、誰も信じていない。

私たちは、公約を反故にし、地元をはじめとした多くの市民の思いを無視し、閣内の意見の一致すら見ずに発表した日米共同声明に断固抗議するとともに、辺野古への新基地建設案の撤回、航空法も米国の基準をも無視した世界一危険な基地である普天間飛行場の即時閉鎖と海兵隊の全面撤退を求めて、米国政府と交渉を開始することを、強く要請する。

内閣総理大臣鳩山由紀夫殿

2010年5月28日

沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座

見直せ！日米同盟 厚木基地強化に反対する大和行動に500人

5月23日大和市内で開催された「見直せ！日米同盟 返せ！厚木・岩国・普天間基地～次期固定翼哨戒機 P-1 配備撤回！5. 23 大和集会」には、約 500 人参加。どしゃ降りの雨の中、厚木基地周辺をデモ行進し、基地機能強化反対！基地撤去をアピール。普天間爆音訴訟原告団から連帯メッセージ。岩国でも 5000 人規模の集会が同時開催された。

